

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「“食の安全” 法案提出へ」
 - 2) 「ホワイトデーに友ビス」
 - 3) 「卒業生の不用品、新入生へ」
 - 4) 「照明器具メーカーのロービジョンケア」
-

1) 「“食の安全” 法案提出へ」

昨今の食に関する事件多発をうけて民主党が8日までに「食の安全・安心対策関連法案」の骨格をまとめ、3月中にも国会に提出する。

この法案では、食品の安全に関する業務を統括する「食品安全庁」（仮称）の創設をはじめ、食品の安全確保策として製産から販売までの各段階で食品の情報を追跡できるトレーサビリティ制度の導入や、国内で製造・加工された食品について主要な原料の原産地の表示を義務づけることを盛り込んでいる。

「食品安全庁」は、現在の農林水産省と厚生労働省に所管する食品に関する機関の事務を一元化して設置する。同庁長官には閣僚を充てる。

中国も「食品安全法」を年内に制定し、食の安全対策強化を図るようだが、ここ最近多く発覚している偽装などの事件は、本来、企業のモラルで起こるはずの無いような事件である。改めて機関を設け国民の血税を遣って取り締まらなければ食の安全が保たれないというのは、憂慮すべき状況である。

2) 「ホワイトデーに友ビス」

森永製菓がバレンタインデーからホワイトデーにかけての販売促進策として打ち出した提案。バレンタインデーのチョコレートから、ホワイトデーに向けてビスケットを前面に押し出している。ビスケットの表面にチョコレートなどで絵やメッセージを描いて友達に贈ろうという提案である。

女子中・高生たちの中で携帯電話など持ち物をビーズなどで飾りつける「デコブーム」が浸透していることから、ビスケットに「がんばれ」、「スキ!」、「これからもよろしくネ」といった友達に対するメッセージを“デコる”ことを勧めており、簡単に手作りで出来ることから注目を集めている。ホワイトデー後も受験、卒業や、新学期に向けてもコミュニケーションツールとしても浸透させていく。

余談だが、元々ホワイトデーといえばマシュマロが主流であり、最近では日本人に定着させるべく神戸より「マシュマリスト」が誕生。こういったマシュマロのプロが提案する新たな食感や味わいに対し、目で楽しむデコレーションはまた違った遊び心を刺激しているよう。

3) 「卒業生の不用品、新入生へ」

金沢大学角間キャンパスで8日、卒業生から引き取った家電製品や家具を新入生に格安で提供する「学生リユース市」が開かれ、冷蔵庫や洗濯機、ベッド、ガスコンロなど約150点が展示された。開始30分でほとんどの製品の買い手が決まる人気ぶりだった。

リユース市は、卒業生から大量に出される粗大ごみを削減するとともに新入生が新生活を始める際にかかる費用を抑える目的で昨年から開催されている。

新品の販売価格の1、2割で新生活に必要な品がほぼすべてそろおうとあって、多くの新入生が会場に詰めかけ品定めした。

これから新生活が始まる人も多いと思うが、一時的な单身生活などでは、家電など投資価格の割りに使用期間が短いものなども多いと思う。

こういった取り組みがあれば様々なエネルギーやコストが削られ、財布にも環境にも優しい新生活をスタートすることができそう。

4) 「照明器具メーカーのロービジョンケア」

ロービジョンとは弱視状態のこと。世界保健機関（WHO）では両眼に矯正眼鏡を装着して視力を測り、視力0.05以上0.3未満の人と定義している。

こうした弱視の視覚障害者の残った視力の機能を最大限に活用し、視覚障害者の低下した生活の質を元のレベルにまで高めることを「ロービジョンケア」という。

松下電工では徳島県の補助事業として歩道境界表示灯など「ガイド照明器具」シリーズを商品化しているが、同社が2007年12月JR徳島駅前の路上に白色LED（発光ダイオード）を設置し光で横断歩道の始まりを知らせる実験を行っている。

また、同年6月には産官学が提携し、東京・浅草で雷門周辺の道路やバス停などに、埋め込み型のガイド灯や音声案内システムを設置するなど、照明器具メーカーの意識も高まっている。

観光地などでは誰もが楽しめる環境が求められており、省エネ・エコの取り組みも合わせてこれからの環境づくりの必須項目となって欲しいものだ。